

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
ぶらすA 杵築事業所		令和8年 2月 24日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		ホールを仕切って活動したり、課外活動で公共交通機関を使用し、公園遊びに出かける等、工夫して活動を提供している。	部屋数は少ない。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		配置基準より多く指導員を配置するようにしている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		怪我防止のため、ジョイントマットを敷く等工夫している。	ホールの床がフローリングである。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎朝、掃除をしている。車内から降りた後や利用児童が帰所した後は、必ずホール等を消毒するようにしている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		学習室を個室として、個別療育等で使用することもある。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		児童指導員や専門職の職員の意見も聞くようにしている。	振り返りをする日に出勤している職員で話し合う事が多い。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		集計結果を活かした次年度の年間計画を立てている。日頃の支援に関しても職員同士で、検討し、業務改善に努めている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		1 on 1 ミーティングを相談支援専門員の方に頼んで、不定期で開催し、風通しの良い職場作りに努めている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5	相談支援専門員が事業所の委員会や研修に参加し、助言をもらい、業務改善に努めている。	第三者委員会は設立していない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		月に1回、法人研修を月曜に開催している。今年は、外部講師の方にも研修を実施してもらった。外部の研修にも参加している。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		支援プログラムを作成、公表している。事業所の玄関先にも掲示している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		ニーズや課題が変わった時には、半年を待たずに、計画を見直す事もある。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		こどもの最善の利益を考慮した検討を心掛けている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		個別支援計画は、職員と共有し、その都度支援に関しても助言、確認している。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		日々の支援記録や職員からの聞き取りにより確認することが多い。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		保護者の方にも伝わるよう、専門用語を避け、言葉を選びつつ、具体的な支援内容を設定するよう心掛けている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		多職種の職員からの意見を取り入れながら活動プログラムの立案をしている。	月案、週案を作成する日に出勤している職員で話し合う事が多い。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		季節やその月によって、イベントや行事を企画している。	サーキットが多い。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		小集団活動で、粗大運動を取り入れている事が多い。集中して取り組んで欲しい為、机上活動では、個別療育を取り入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		専門実施の時間（運動等）と感覚遊びの時間では、職員を交代して支援に入る等、色んな職員が関わるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		その日に難しい時は、次の日の朝礼時に、振り返りをする事が多い。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		日々の支援記録は残し、支援の見直しや改善に努めている。目標に対して、どんな支援をしたか記録に残すようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		最低でも、半年に1回はモニタリングを行い、計画の見直しをしている。モニタリングに指導員も参加する事がある。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		主に、児童発達管理責任者が参加する事が多い。時折、専門職も参加する事がある。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		サービス担当者会議等で、情報共有を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		こども園の送迎時には、日ごろの様子等を情報共有している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		顔合わせも兼ねて、サービス担当者会議を開催し、その際に情報共有を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	6	併用通所されている児童がいる為、担当者会議で施設見学をさせてもらったり、助言を受けることもある。	児童発達支援センターと関わる機会は少ない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	5	大半はこども園と併用通所しているお子さんが多く、日頃からこども園で他のこどもと関わっている。	ふらすAの山香事業所との交流を実施している。（公園遊び、地震体験車等）
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎時や連絡帳を通して、日頃からお伝えしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1	保護者の方に対しては、家庭でできる事などは相談援助している。	参加型の研修などは、特に機会を活かす情報提供はしていない。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時や契約変更時に、説明をしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		児童発達のお子さんに関しては、特に家族の意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		個別支援計画の説明をしたのちに、署名を頂いている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		送迎時にお聞きする事もあるが、事業所に来所して、面談で相談援助に乗ることもある。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	年に1回は、引き渡し訓練後、保護者参観を実施している。	父母の会の設立はしていない。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		相談や申し入れがあった際には、情報共有し、適切に対応するようにしている。	児童発達支援管理責任者が率先して対応している印象がある。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		月の行事予定等は、プリントを配布している。今月、HPも完成した為、有効活用していく。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報の取り扱いには十分に留意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		子どもには、選択肢を提示し、指差して意思の確認をする等、視覚支援を用いることもある。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	6	地域のイベント（お接待、スタンブラリーなど）には、参加している。	地域住民の招待までには至っていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		マニュアルを策定している。訓練を実施した日には、連絡帳で保護者にもお伝えしている。	マニュアルは、保護者の方には、周知できていない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		BCPを策定し、自然災害、感染症ともに、訓練も今年度実施した。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		契約時や引き渡しカードに記入して頂いている。服薬変更時にも、確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	2	保護者からの報告にて確認し、おやつ提供時には、アレルギーが確認できるよう掲示して、提供時にも留意している。	医師の診断書はない方が多い。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		安全計画に沿って、研修や訓練を実施している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		安全計画に沿って実施した訓練内容を明記したプリントを年に1回配布している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットを記入したのち、情報共有をし、再発防止策を検討している。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		年2回事業所内で研修をしている。県や外部の研修も参加し、その後、伝達研修も行っている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		児童発達支援を利用しているお子さんの中で、身体拘束をしないといけない状況は今はない。		